



冷静に対応を

インフルエンザ

インフルエンザが風邪と区別され特別視されるのは、感染力や症状がとても強いからです。

毎年流行するインフルエンザウイルスは形を変えるため以前の抗体が役に立たず、大人も感染してしまいます。

まず、感染を予防することが大切でマスクや手洗いが励行されます。うがいの効果は分っていません。予防接種は感染を完全に予防できるわけではありませんが、重症化を防げることが分かっています。ただ、効果が現れるまで接種から2週間かかること、4カ月後には効果が落ちることから接種時期に注意が必要です。

鼻やのどの粘膜に感染すると2〜3日後には高熱が出て咳や鼻水以外に下痢、頭痛、筋肉痛など、さまざまな症状がでます。細菌による肺炎は成人でも起こりやすい合併症です。まれですが、小児に見られる合併症

としてインフルエンザ脳症があり、けいれんや意識障害で発症し命にかかります。

インフルエンザは発症後半日以上たないと検査による診断はできません。また、抗インフルエンザ薬には熱の期間を短くする効果はありますが、合併症を減らすかどうかは分かっていません。このため乳幼児・高齢者・妊婦・慢性の病気がある人以外の健康な人には投与する必要がないとされています。従って、あわてて医療機関を受ける必要はありません。

大切なことは他人にうつさないことです。熱が下がってもインフルエンザはうつるため「発症した日から5日を経過してから」、解熱してから2日(幼児では3日)を経過するまで「は自宅安静を心掛けましょう。」